

まちづくり人材育成と 荒砥高校存続への取り組みを

町長 郷土愛の醸成も重要。荒砥高校存続に向けて手厚い支援を行う



録画を配信



横山和浩議員

まちづくりへの関心

問 若者のまちづくりに関心が高い。行政の関わりをどう考えているか。

町長 これまでも支援を行ってきたが、幼少期からの郷土愛醸成も重要な要素。教育が担うところが大きい。まちづくりに参画する機会も重要であり、例えば小学生から高校生までが行政とまちづくりについて議論する場を設ければ、意欲を培うことにつながるのではないか。

令和4年度からの町

生涯学習振興計画を策定中であり、連携し協力して事業を展開したい。

地域課題の解決にコミュニティセンターは大きな力であり、議論し取り組んでいただければありがたい。

若者対象の取り組み

問 若者がチャレンジしやすいような取り組みは考えているか。

企画政策課長 まちづくり助成事業、地域づくり推進交付金などがある。地域づくり交付金のソフト部分も各地域で検討

部分も各地域で検討

検証し活用していただきたい。

問 私は、しらたか夢未来発掘事業に応募し活動したことがあった。議員を目指そうと思ったのは、その時の経験があったからだと思う。成長や交流を促す導きがプログラムに含まれていたと思われるが、そういった取り組みで引き続き支援を頂きたい。

企画政策課長 SNSの活用など、チャレンジへのアプローチも以前とは変わってきている。今の時代に合った支援や対応を検討する必要がある。

荒砥高校の存続

問 荒砥高校の単独校としての存続は。

町長 山形県が示す県立高校再編整備基本計画に、再編整備の在り方やその方向性が示されている。3年

間をめどに学校の魅力化・活性化策を実施し、実施後も入学者に増加傾向が見られない場合は、設置主体を含めた学校の在り方について、地元市町と改めて協議するとされている。定員調整だけの対応には課題があり、お子さんの将来を考えると、うすべきか、という視点が必要と考える。

次の一手

問 荒砥高校の存続に向けた次の一手は何か。

町長 荒砥高等学校魅力化計画を策定し、入学者の確保に向けた取り組みを実施している。

より多くの入学者を確保するため、ICTを活用し

オンライン教育コンテンツの導入支援、運転免許証の取得支援、修学旅行の経費に対する支援、デリバリー型学食の開設、小中高混乗型スクールバスの運行など、これまで以上に手厚い支援を早急に行い、定員の2分の1以上の入学生を確保したい。



絆も深まる修学旅行



荒砥高等学校ホームページへ